

船舶事故等調査報告書

平成21年10月1日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009門第107号	
事故等種類	浸水	
発生日時	平成21年7月15日（水） 12時15分ごろ	
発生場所	大分県大分市大分港新日本製鉄主原料シーバース灯から真方位077° 1,260m付近 (概位 北緯33°16.2′ 東経131°38.8′)	
事故等調査の経過	平成21年7月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 510、トン数不詳 不詳、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	全損	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗船し、大分港内で杭に係留して釣りを行っていたところ、急速に発達した風浪により、船外機が大量の海水をかぶって濡れ、起動できない状態となった後、係留索が切断した。直後に錨を入れたが、錨索も切断したため、船体が漂流し、平成21年7月15日12時15分ごろ、港内岸壁付近の消波ブロックに漂着した。</p> <p>船長等は消波ブロック伝いに上陸したが、船体はどうすることも出来ず、消波ブロックに打ち付けられるうちに破損し、沈没した。</p>	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北西、最大瞬間風速 約15m/s	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、急激に風浪が強まる中、避難時期を失した可能性があると考えられる。 本船は、大量の海水打ち込みにより、船外機が濡損した可能性があると考えられる。</p>
原因	本事故は、大分港において、本船に係留して釣り中、急激に風浪が強まった際に、避難時機を失したため、発生した可能性があると考えられる。	